

シンポジウム

「ポストコロナ社会を生き抜く地域の知恵と持続可能性
ー新たな地域循環共生圏（ローカルSDGs）の創造ー」

登壇者プロフィール

日時：令和3年2月16日（火） 14:30～17:30 オンライン開催

主催：環境省

共催：国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）
地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）

主催者挨拶

鼎談：「持続可能な地域づくり×DX (デジタルトランスフォーメーション)」



中井 徳太郎

環境省 環境事務次官

1985年東京大学法学部を卒業し、同年旧大蔵省へ入省。主計局主査(農林水産係)などを経験。1999年から2002年まで富山県に出向。生活環境部長などを勤め日本海学の確立、普及に携わる。2002年 財務省広報室長、2004年 東京大学医科学研究所教授、2006年金融庁監督局協同組織金融室長、2010年より財務省主計局主計官(農林水産担当)、2011年環境省総合環境政策局総務課長、2012年環境省大臣官房会計課長、2014年環境省大臣官房審議官・内閣官房内閣審議官、2016年環境省廃棄物・リサイクル対策部長。2017年総合環境政策統括官。



村山 泰啓

国立研究開発法人情報通信研究機構
ソーシャルイノベーションユニット
戦略的プログラムオフィス
研究統括

国際学会会議World Data System国際科学委員会ex officio委員、日本学術会議連携会員、日本地球惑星科学連合理事、国立国会図書館科学技術情報整備審議会委員、G7科学大臣会合G7オープンサイエンスWG(共同議長)等を務める。欧州委員会「欧州オープンサイエンスクラウド高級専門委員会」委員、京大大学生存圏研究所客員教授などを歴任。文部科学大臣表彰科学技術賞受賞(2007年)。京都大学工学博士(1993年)。



藤田 香

日経ESG シニアエディター

富山県生まれ。東京大学理学部物理学科卒。日経BPにて、「日経エレクトロニクス」記者、「ナショナルジオグラフィック日本版」副編集長、「日経エコロジー」編集委員、「日経ESG経営フォーラム」プロデューサーを経て、現職。生物多様性や自然資本、持続可能な調達、ESG投資、SDGs、地方創生を追っている。著書に『SDGsとESG時代の生物多様性・自然資本経営』など。環境省や富山市、佐渡市の委員や、東北大学や聖心女子大学の非常勤講師を務める。富山大学客員教授。



内田 東吾

一般社団法人イクレイ日本
事務局長

2006年5月に国際協力銀行(JBIC)に入行。専門調査員として世界銀行、アジア開発銀行などの国際機関のほか、韓国・中国・タイなどの援助機関との連携業務に携わる。2009年4月から国際協力機構(JICA)の企画調査員としてタイに3年、カンボジアに5年勤務。環境・気候変動分野の国際協力事業を担当し、環境公害対策、気候変動対策のほか、都市の環境インフラ支援事業に従事。2017年7月に(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)に入所、ASEAN各国都市のSDGs推進事業を担当。2018年7月より現職。

事例発表

モデレーター



星野 智子

一般社団法人環境パートナーシップ会議 副代表理事

環境、パートナーシップ、SDGsをテーマに、対話の場づくりなど協働推進、市民活動・CSR活動の促進に携わる。「国連持続可能な開発のための教育(ESD)」や生物多様性保全の推進、SDGsに関する講演、ワークショップなどを多数行っている。現在(一社)SDGs市民社会ネットワーク、(一社)海外環境協力センター、NPO法人日本NPOセンターの理事などを務める。

事例発表①



中井 哲也

広島県 商工労働局
地域産業IoT等
活用推進プロデューサー

NTTコミュニケーションズで法人営業、経営企画、技術戦略、IPv6サービス開発など担当。その後、インテックネットコア、日商エレクトロニクスで新技術研究、海外事業に従事した後、アフリカで通信インフラ整備事業に参画。2019年より現職。

事例発表②



中谷 紀雄

枚方市 総合政策部 企画政策課
主任

Hirathonプロジェクト担当者。公共オープンデータや地産地消データを活用し、様々な地域課題を、アイデアソン・ハッカソン形式で、企業・行政・大学の力を合わせて解決することを目指し、令和元年度(2019年度)から実施している。未来の担い手である、学生が主体となってアイデアを出しあい、様々な課題を連携させ、新しい価値を創造していくことを目的としている。

事例発表③



織田 友理子

一般社団法人WheelLog
代表理事

WheelLog!アプリ発案者。2002年に進行性の筋疾患「遠位型ミオパチー」と診断を受ける。2015年のGoogleインパクトチャレンジでバリアフリーマップのアイデアを発表しグランプリを受賞。車いすユーザーの視点を生かしバリアフリーマップのアプリ開発・運営を行う。総務省地域情報化アドバイザーとして講演活動にも取り組む。一児の母。

事例発表

事例発表④



永井 三岐子

国連大学サステナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット事務局長

JICA専門家、国連大学職員としてモンゴルの水資源管理、地域レベルの気候変動適応策、タイ水分野の気候変動適応策研究プロジェクトに携わる。2014年より現職。石川県の自然と文化を一体的に保全・活用する、「生物文化多様性」プログラムをユネスコ、生物多様性条約事務局と推進。2015年からは地域の国連機関の強みを活かし、地域SDGsを石川全域で実践中。金沢市出身。

事例発表⑤



吉田 基晴

サイファー・テック株式会社
株式会社あわせ
代表取締役

1971 年 美波町 生まれ。サイファー・テック(株)、(株)あわせ代表取締役。美波町政策参与。四国大学特認教授。内閣官房「未来技術×地方創生検討会」委員。地方公共団体情報システム機構 経営審議委員会委員。著書「本社は田舎に限る」講談社+α 新書より出版。映画「波乗りオフィスへようこそ」原案本。第70 回「情報通信月間」総務大臣表彰を受賞。

総括



武内 和彦

公益財団法人地球環境戦略研究機関
理事長
東京大学未来ビジョン研究センター
特任教授
国連大学サステナビリティ高等研究所
上級客員教授

1951年和歌山県生まれ。74年東大理卒、76年同農院修士修了、農学博士。東大アジア生物資源環境研究センター教授等を経て、97～2012年東大院農学生命科学研究科教授。08～16年国連大副学長／上級副学長。12～19年東大サステナビリティ学連携研究機構長・教授／特任教授。16年～国連大サステナビリティ高等研究所上級客員教授。17年～地球環境戦略研究機関理事長。19年～東大未来ビジョン研究センター特任教授。